
All is well that ends well.

J I N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

All is well that ends well .

【Nコード】

N3238Z

【作者名】

JIN

【あらすじ】

名も泣き一人の少年の挑戦といえは聞こえがいいかもしれない、18年間ベットの上で過ごしてきた退屈な人生、毎日毎日勉強という名の時間つぶし
しかし、そんな俺にも誰にも言つたことが無いことが
まさかそれが現実になるなんて

始まりは終わりへの一歩

「終わり良ければ全て良し」、この言葉を聞いてある人は、果たして本当にそうなのだろうか？、そんな些細な疑問を浮かべる

生きてることに意味を持たない、ただベットで横になって18年
苦しみと絶望の18年間

そんなやつが、あの言葉に疑問に思っている
もう終わりしか来ないのに……

「おはようございます、起きてますか？」

「ああ」

聞こえない、聴こえづらいと言った方がいいのかそんな声が聞こえた
「さつさと起きてくださいよ、着替えを済まして、それから……」
あとの言葉は覚えてない、こんなの俺じゃない、こんなの夢だ……
俺はいつもベットのうえでしか生きていけない、生きてちゃいけない
人間なんだ

「だらしがないな、つたら私の話聞してるの？」

まだ続いている、いい加減にしてくれ、これは俺の世界じゃない！
目を覚ませ

チャイム音

やっぱりこうなるのか、恐る恐る目を開けて見えるのは白い天井
18年間見続けている絶望の色、吐き気がする
体は動かない、まだ意識だけが起きている状態だった

なんて融通の聞かない体だ、まるで幽霊が自分の体を見ているかの
ようだ

「おはようございます」

いつも聴いている声、これは夢なんかじゃない別に安堵しているわけじゃないが、こいつ以外喋ったためしがない

「体がうごかねえ」

「それはいつものことですよ？」

まったくその通りだ、うだうだ言うのは止めましょう

「あなたの体が動くのは後30分後くらいかしら、それまでにいくつか質問するね」

「はいはい」

質問とは、俺の名前、年齢、地元、その他記憶に関する質問ばかりこうやって喋ってる時点で質問なんか要らないと愚痴をはいてみたときもあつたが、体が動かないんじゃないしょうがない、質問に答えるしかない

「夢は見た？」

「見てない」

この質問だけは嘘をつく、説明するのが面倒なのとこれは昔から覚えてのことだから

「もうすぐ体が動くから、好きなようにしていいわよ」

「やっとか」

また天井、考えてるときは目を閉じる癖があるから見なくてもいいが、その癖はこの天井を見たくないから勝手に作った癖かもしれない

「お………」

体が動いた、ベットから起き上がれると思いたかったが現実はその甘くない、最初にベットが動き、背もたれのような感じで体を起こすように起き上がる、動くのは手だけ、テーブルの上のご飯を掴む

「いただきます」

食べ物を口の中に入れる、いつもと変わらない味、でもなぜか飽き

ることの無い味でもある

「「ちそうさま」

そういうと目の前の食器が片付けられていく、ベットがまた動き出す
「今日はモニターに移っていることを勉強しましょうね」

仰向けの俺の目の前にモニターが迫ってきた、内容はいたって普通
……じゃないか、俺の年なら普通は大学受験の勉強だろうな、しかし、俺の目の前に映っているのはそんなものとはかけ離れたものだと自信を持っていえる、こんなもの18歳でやるもんじゃない

毎日その繰り返し、俺の喋った内容をあいつがメモし質問して、終われば別に奴にそのメモを渡す、あれにはいったい何が書いてあるのだろうか、聞いてみたけど教えてくれない、

「なにぼーっとしているの？ 彼方らしくない」

「別に」

退屈すぎるといえば、この何倍もの量になるから俺は絶対に言わないようにしている、昔言ってしまったからな

「はい、今日は新しいところよ」

めずらしいな、でもどうせこれも退屈な時間になるんだろうな
俺に解けない物など……

「ああん!？」

「……。」

なんだこれ……俺に喧嘩でも売っているのか？ でも、こいつに聞くのも癪だな、どうしよう……

「どうかしたの？」

俺の声には気付いてないらしい、不幸中の幸いだ

「ちよつと考えさせてくれ」

「珍しいわね、この文章のロシア語に訳すくらい出来るでしょ?」

(何言ってるんだこいつ? そんな問題……)

目の前にある問題を何度見てもそんなものは書いていない、あるのはたった一行、だが……

「あのさ」

「今日はおかしいわよ、どうかしたの？」

「プログラムは絶対だよな？」

「その通りよ、さっさと始めなさい」

相変わらず俺に今日に無しだな、いいだろう、その態度がこのような結果になることを知らないクズなのだから

「答えはもちろんNOだ！、そして……これが始まりだ」

「何言ってるの？ 問題は……」

何も聞こえなくなった、目は一応の用心のため塞いでいたが、物音ひとつしない

「おはようございます、起きていますか？」

「ああ」

(やっぱりな……)

「早く起きてくださいよ、着替えも済まして今日は忙しいのですか」

「ら」

「今日は何日だ？」

「西暦2012年1月1日の大変重要な日なのですよ！ 何を言い出すのですか！」

「ああ、そうだったな、これから始まるんだったな」

「そうですとも！ 頑張りましょうね」

「」「殺し合いを……」

二人は玄関の扉を開けた
まったく何が「終わりよければ全てよし」だ
まだ始まってもしゃんかよ

でもこのときは何も知らなかった
この始まりは終わりへの一歩だということ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3238z/>

All is well that ends well.

2011年12月11日06時48分発行